

2020年には25%オフ



▲ワークショップで2020年の長浜の姿を検討する市民会議のメンバー

市民会議では、アンケートの結果や市内で排出される温室効果ガスの状況(グラフ2参照)をふまえて、課題や対策を検討し、ワークショップで理念や方針などが話し合われました。そして、最後となった昨年12月の第5回会議で素案をまとめていただきました。その後、パブリックコメントで9人から52件のご意見をいただき、素案を一部修正して計画案をつくりました。

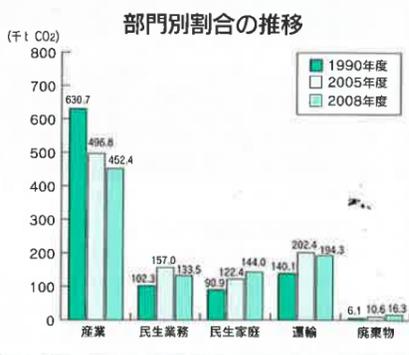
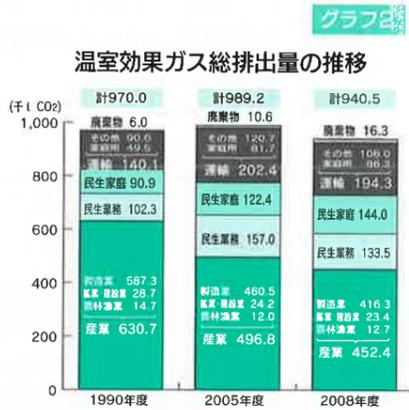
市民会議

平成22年度は、学識経験者、関係団体の代表者、公募市民の14人で構成する「長浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)策定市民会議」を設置し、計画素案の検討を行っていただきました。

課題は、そういった増加部門への対応とアンケートで意見が多かった「省エネ」・「自然エネルギー」・「ごみの3R」への取組が挙げられます。また、市内にはCO₂を吸収する森林が多いことから、森林による吸収機能を最大限に活用することも課題です。

現状と課題

2008年度の長浜市の温室効果ガス排出量は、94万トンで、基準としている1990年から比べると約3%、3万トン少なくなっています。部門別に見ると産業部門は減少していますが、サービス業などの民生業務部門や家庭部門、運輸部門で増加しています。



3つの理念

市の温暖化対策の方向性を示し、想いを共有するため、市民会議での意見をふまえて、3つの理念を掲げました。

●自然をいかす

豊かな自然がたくさんあるので、その恵みに感謝し、いかす心をもつこと

●文化・歴史を大切に

昔ながらのいいものを学び、継承し、大切にすることを

●自律とつながり

一人ひとりが自ら行う気持ちを持ちながら、みんなと連携していくことを

また、その理念に基づき、部門ごとに取組方針を掲げるとともに、市の特性や課題をふまえて、

重点施策

●ながはま産の活用と

地元のものを地元で活用することで、輸送にかかるCO₂削減と森林と農地の適正保全によるCO₂削減を図っていきます。

●ながはま版エコリズムづくり

エコドライブや自転車利用などCO₂を出さない交通の整備を行い、長浜の自然や歴史・文化を感じる観光を推進し、CO₂削減を図っていきます。

●ながはま「楽工」

各家庭で楽しく、楽に取り組める基準をつくり、毎日続けることでCO₂削減を図っていきます。

削減目標

重点施策のほか様々なことに取り組み、温室効果ガス排出量を国と同じように2020年度に1990年度比で**25%削減**することとしました。

環境保全課 ☎65-65113

~長浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)をつくりました~



▲藤井市長へ答申書を手渡す富岡会長(左)

3月1日、藤井市長は、長浜市環境審議会の富岡会長から長浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定について答申を受けました。その後、市ではその答申を尊重し、地球温暖化対策の方針を定めた長浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)をつくりました。

答申

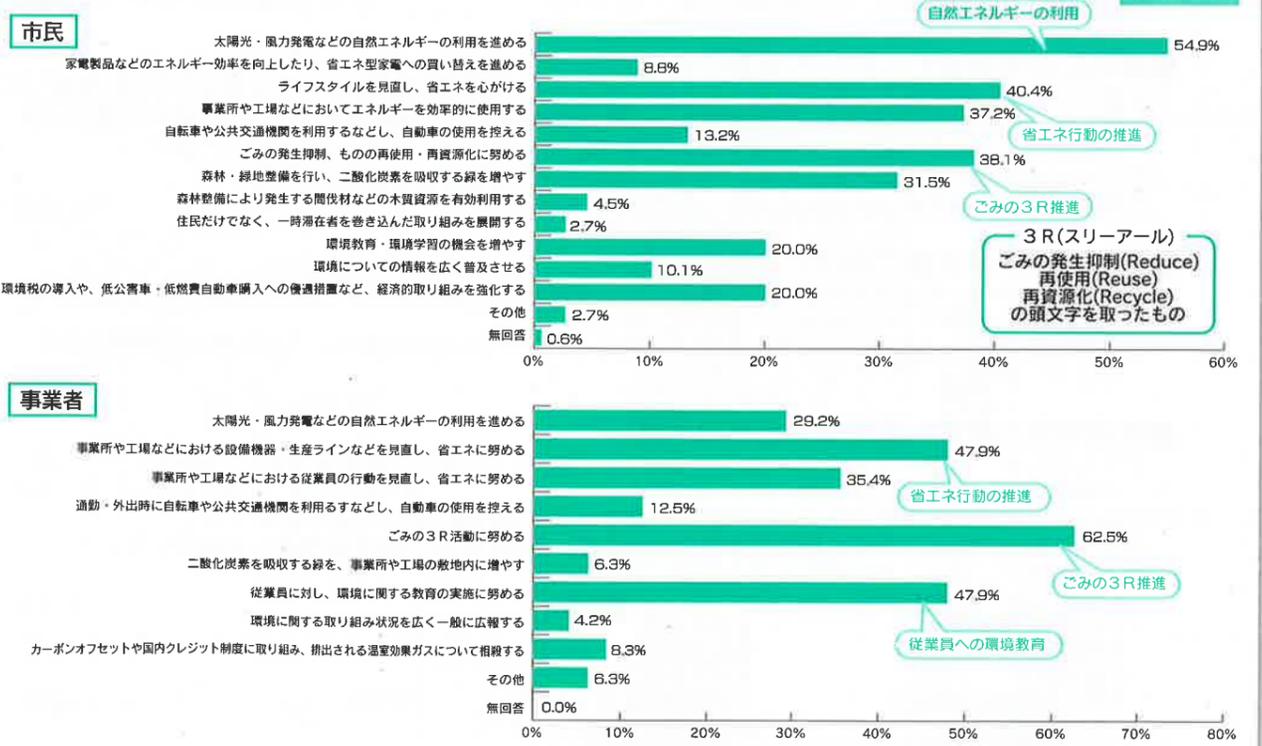
近年、地球温暖化が原因と考えられる異常気象が世界各地で起きています。昨年10月に起きた奄美大島の豪雨や今年の豪雪などもその影響ではないかと考えられます。自然災害をなくすることはできませんが、私たちにできることは、その発生の一因と考えられる温暖化をこれ以上進めないこと、そして温暖化対策を少しでも早く、かつ、継続して行っていくことではないでしょうか。そんな思いを持ってつくったのが「長浜市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」です。

アンケート

計画は平成21年度から2年間かけてつくりました。平成21年度は、市民や事業所の皆さんの地球温暖化に対する意識や意見、日々の活動状況などを把握するため、アンケートを行いました。アンケートは、18歳以上の市民約1200人に送り、その3分の2にあたる約800人から回答をいただきました。また、事業所は114社に送り、48社から回答をいただきました。

中でも地球温暖化防止のために必要な取組を聞いた質問には、市民の皆さんは「自然エネルギーの利用推進」、「省エネ行動の推進」、「ごみの3Rの推進」を、事業所の皆さんは「ごみの3Rの推進」、「省エネ行動の推進」、「従業員への環境教育」を挙げられました。(グラフ1参照)

Q. 地球温暖化防止のために必要だと考える取組 (複数回答)



地球温暖化とは、CO₂(二酸化炭素)などの温室効果ガスの濃度が増加し、地表面の温度が上昇すること